

国際交流委員会発行

2ヶ月の留学を終えて

3年生折居ひろはさんの短期留学記です。

昨年度内に発行する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で編集作業に時間を要しました。



【2枚とも写真左が折居さん】

発行予定

- エジカム高校 3
姉妹校の歴史
- エジカム高校で 4
の授業は？
- エジカム高校ま 5
での行き方！
- シトカの町は 6
どんな町？

姉妹校Mt.EdgecumbeHSへの短期留学記を掲載します 2ヶ月間の留学を終えて 折居ひろは

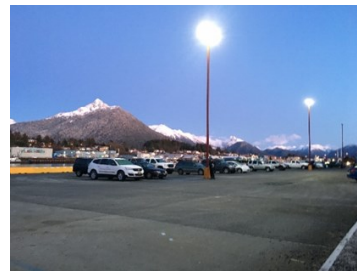
私は2019年の10月中旬から12月のクリスマス前までアメリカ・アラスカ州にあるMEHS(Mt.Edgecumbe High School)という学校に短期留学をしてきました。アラスカってどこ？と思った人もいると思いますが、アラスカはアメリカ最北端の場所に位置しアメリカ最大の州として知られています。ちなみに行きは乗り継ぎ2回、帰りは3回ととても長旅でした。

留学といえば多くの人は自分が流暢に英語を話している姿、毎日輝かしい、華やかな生活をしている姿を想像すると思います。私もそうでした。そんな自分を想像しながらホストスチューデントに会い簡単に挨拶したときにはもうすでに日本に帰りたくなっていました。簡単な挨拶すら何を言われているのか、自分が何を話しているのか、もう何もわからなくなりどうして私はこんなところに来たんだ、と車の中で延々と自問自答していました。

そんな不安の中始まった学校生活。そこでは本当に日本との違いに驚かされました。教科書の代わりに1人に1台パソコンが与えられ、宿題やテストはそれを使って行います。

授業中にお菓子を食べること、飲み物を飲むことは普通のこと、中には歯を磨く人もいたり…。服装や髪形、化粧に関する校則もなく、髪を染めてくる生徒がいれば先生が「似合ってるね」とほめたり、誕生日の人がいたら授業そっこのけでお祝いしたり、と日本では考えられないことが日常茶飯事起こっていました。後は期末テストの代わりにプレゼンテーションをしたりと生徒の自主性を大切にしたり、生徒を中心に授業を進めるスタイルは自分の意見を言うことが重要なアメリカらしい授業だなと感じました。

英語がわからず英語力の向上どころか友達すらできないのではないかと心配していたのですが、初日にしてたくさんの友達ができることができました。正直に言うのと相手の言うことが理解できずに適当に答えて会話がかみ合わず、困らせることも何度もありました。ですが、翻訳機を使ったり、ゆっくり話してくれたり、中には私が先生の言っていることが理解できていないことに気が付いて身振り手振りで教えてくれる人がいたり、と私と色々なツールを使ってでもコミュニケーションをとろうとってくれる彼女らのおかげで私自身の英語力向上につながったと思います。



他にも毎日行われる色々なアクティビティーや部活動に参加したり、寮から少し離れたところにある映画館に映画を見に行ったり、みんなで買い物に行ったりと沢山の思い出ができました。1番印象に残っているのは、友達とペアを組んでプレゼンテーションをしたことです。自分の英語力のせいでせっかくのプレゼンをだめにしてしまうのではないかと、せっかく誘ってくれた友達に迷惑をかけるのではないかと気持ちは同時に、ネイティブの前で英語を話すことに対するわくわくした緊張感、全てが新鮮な気持ちでした。終わってから、友達とグータッチをし、周りから「お疲れ、頑張ったじゃん」、と言ってもらったときは何とも言えない達成感でいっぱいでした。



今年は新型コロナウイルスの影響でどうなるかわかりませんが、少しでもアメリカの生活に興味がある人はこのプログラムに参加することをお勧めします。英語力以外にコミュニケーション力など今の自分のスキル・アップを図るいい機会になるとと思います。